



三ツ星ベルト株式会社

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料

2025年11月10日

将来情報についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2030年度の「ありたい姿」

変化にぶれない強い企業体質の確立

「'24中期経営計画」は、2030年度の「ありたい姿」に向けた第2フェーズにあたります。
「基盤強化期間」として取り組んだ前中期経営計画の成果を踏まえ、当中期経営計画を
「成長加速期間」として位置付けたうえで、さらなる成長に向けた施策を展開しています。



収益性

売上高
1,000 億円

営業利益額
130 億円



資本効率性

ROE
10 %



株主還元
設備投資

中長期的な企業
価値向上を図る
資本政策の推進



人財戦略

変革を推進する
人材の育成



ESG

持続可能な社会
の実現への貢献
(社会・環境・経済
価値の向上)

第2四半期(中間期) 連結業績

増収・増益(営業利益、経常利益)

- ・ 2006年 化成品事業売却後、2期連続で過去最高の売上高を計上
- ・ 2024年度上期：政策保有株式売却による特別利益約34億円

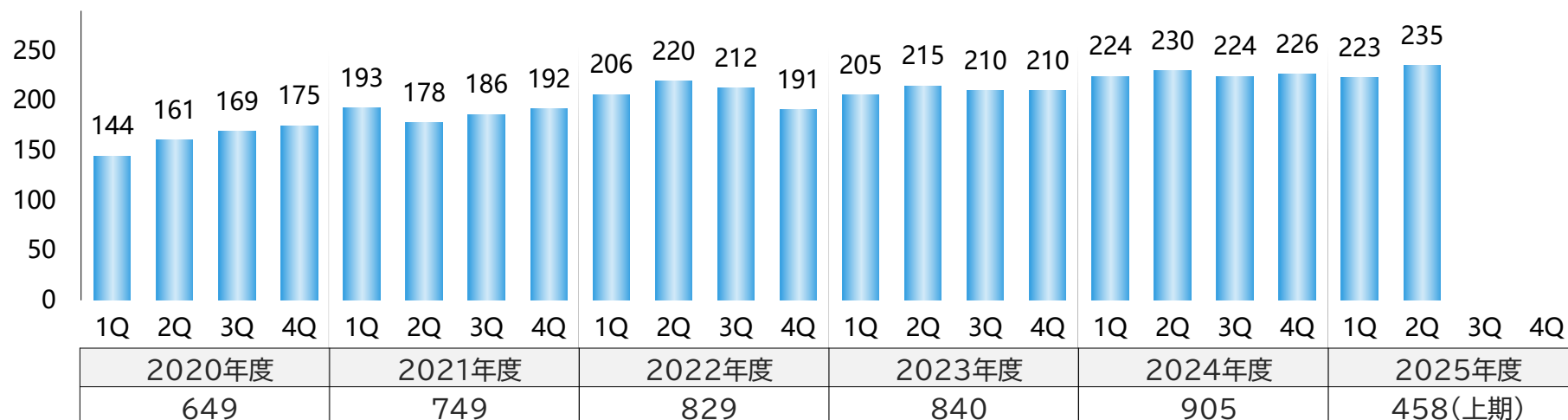
(単位：百万円)

	2024年度						2025年度		前年同期比較	
	上期	比率	下期	比率	通期	比率	上期	比率	差異	増減率
売上高	45,451	-	45,059	-	90,510	-	45,868	-	+417	+0.9%
営業利益	4,548	10.0%	4,380	9.7%	8,928	9.9%	4,597	10.0%	+49	+1.1%
経常利益	4,286	9.4%	4,868	10.8%	9,154	10.1%	5,075	11.1%	+789	+18.4%
親会社株主に帰属する 当期(中間)純利益	6,091	13.4%	2,969	6.6%	9,060	10.0%	3,870	8.4%	△2,221	△36.5%

四半期業績推移

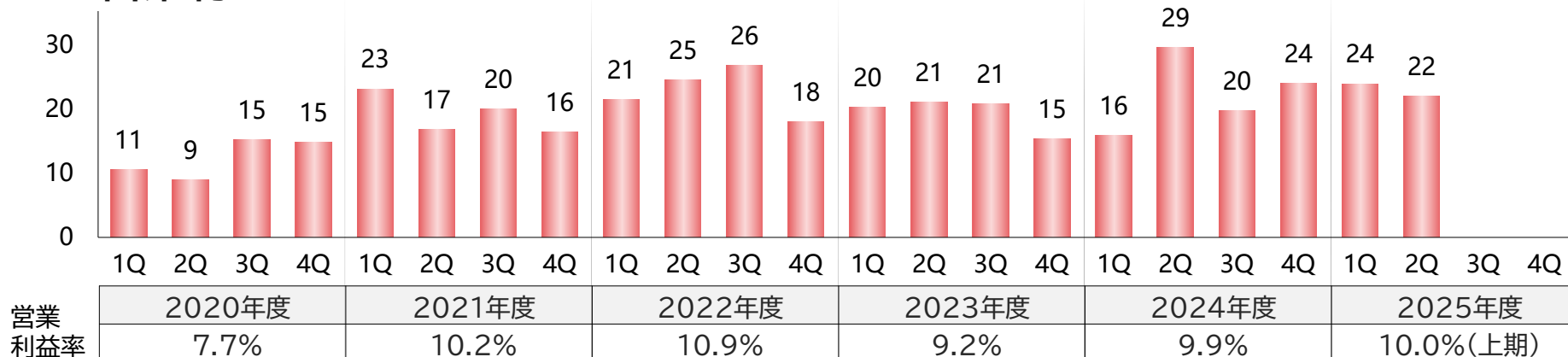
(単位: 億円)

売上高



(単位: 億円)

営業利益



営業
利益率

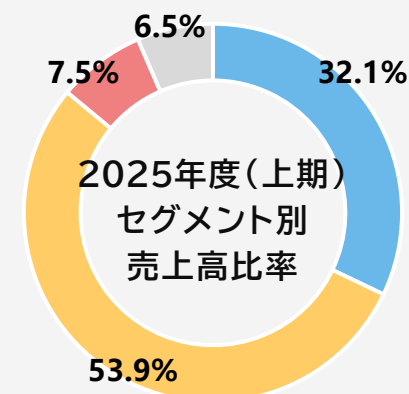
セグメント別売上高（前年同期比）

主力のベルト事業は増加、建設資材が減少

- ・主力のベルト事業は国内外とも前年同期を上回り堅調に推移
- ・建設資材 … 建築部門 施工現場の人手不足の影響を受け、売上高が減少
土木部門 前年同期に比べ、大型工事物件減少

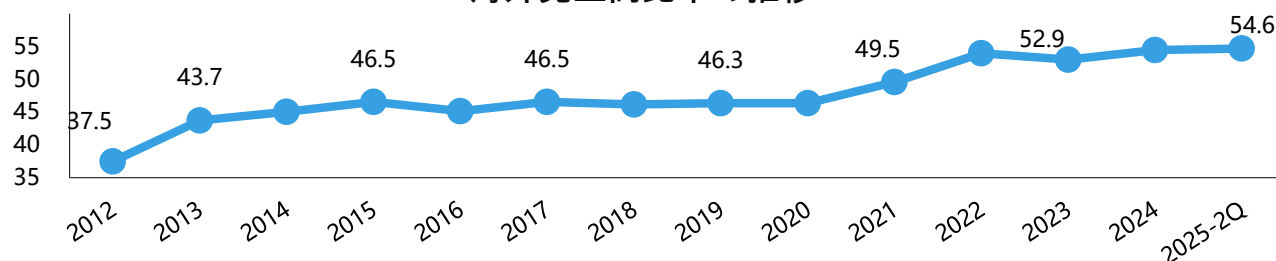
（単位：百万円）

		2024年度				2025年度				前年同期比較	
		上期	比率	下期	比率	通期	比率	上期	比率	差異	増減率
セグメント別	国内ベルト	14,204	31.3%	13,934	30.9%	28,138	31.1%	14,744	32.1%	+540	+3.8%
	海外ベルト	24,534	54.0%	24,061	53.4%	48,595	53.7%	24,701	53.9%	+167	+0.7%
	建設資材	3,726	8.2%	4,376	9.7%	8,102	9.0%	3,424	7.5%	△302	△8.1%
	その他	2,986	6.6%	2,688	6.0%	5,674	6.3%	2,998	6.5%	+12	+0.4%
		45,451	100%	45,059	100.0%	90,510	100%	45,868	100%	+417	+0.9%
海外売上高		24,783	54.5%	24,358	54.1%	49,141	54.3%	25,045	54.6%	+262	+1.1%



- 国内ベルト
- 海外ベルト
- 建設資材
- その他

海外売上高比率の推移



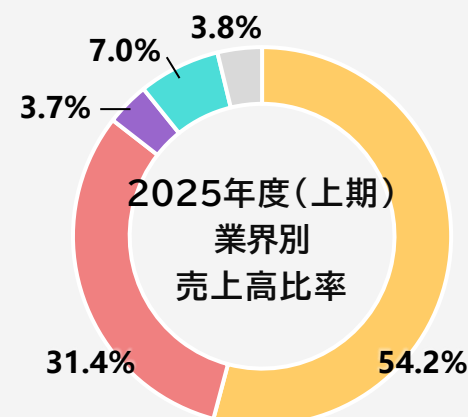
ベルト事業、業界別売上高の内訳（前年同期比）

自動車部品分野は前年同期並み。伝動ベルトが増加。

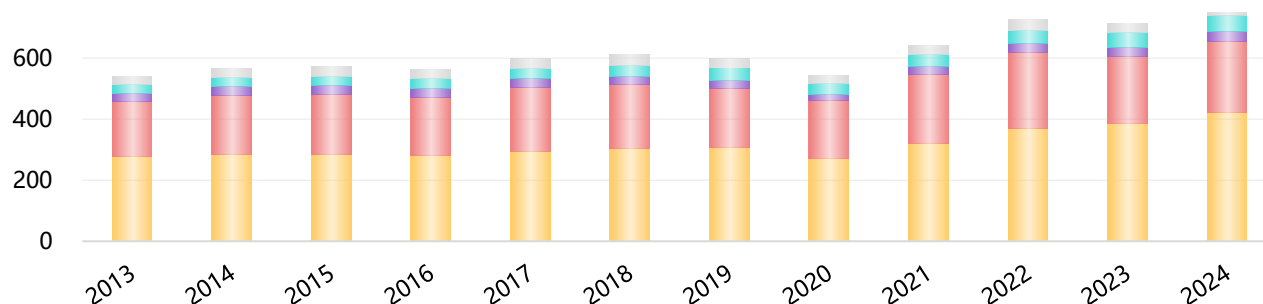
- 自動車部品 四輪車向け電動ユニット（EPSなど）駆動用ベルト堅調も円高影響等もあり前年同期並み
- 伝動ベルト 国内…農業機械、射出成形機、ロボット向け需要復調 海外…農用機械向け増加。在庫調整が解消傾向
- OA機器用 国内…前年同期並み 海外…印刷需要の縮小により減少
- 搬送ベルト 物流倉庫や食品工場向けが順調に推移 | 合成樹脂素材 造船・鉄鋼向けの大型製品が寄与

（単位：百万円）

	2024年度						2025年度		前年同期比較	
	上期	比率	下期	比率	通期	比率	上期	比率	差異	増減率
自動車部品分野	21,417	55.3%	20,709	54.5%	42,126	54.9%	21,385	54.2%	△32	△0.1%
産業機械分野										
伝動ベルト	11,654	30.1%	11,818	31.1%	23,472	30.6%	12,367	31.4%	+713	+6.1%
OA機器用	1,570	4.1%	1,479	3.9%	3,049	4.0%	1,441	3.7%	△129	△8.2%
搬送ベルト	2,661	6.9%	2,622	6.9%	5,283	6.9%	2,766	7.0%	+105	+4.0%
合成樹脂素材	1,437	3.7%	1,367	3.6%	2,804	3.7%	1,486	3.8%	+49	+3.4%
ベルト計	38,738	100%	37,995	100%	76,733	100%	39,445	100%	+707	+1.8%



ベルト事業 業界別売上収益の推移



- 自動車部品分野
- 伝動ベルト
- OA機器用
- 搬送ベルト
- 合成樹脂素材

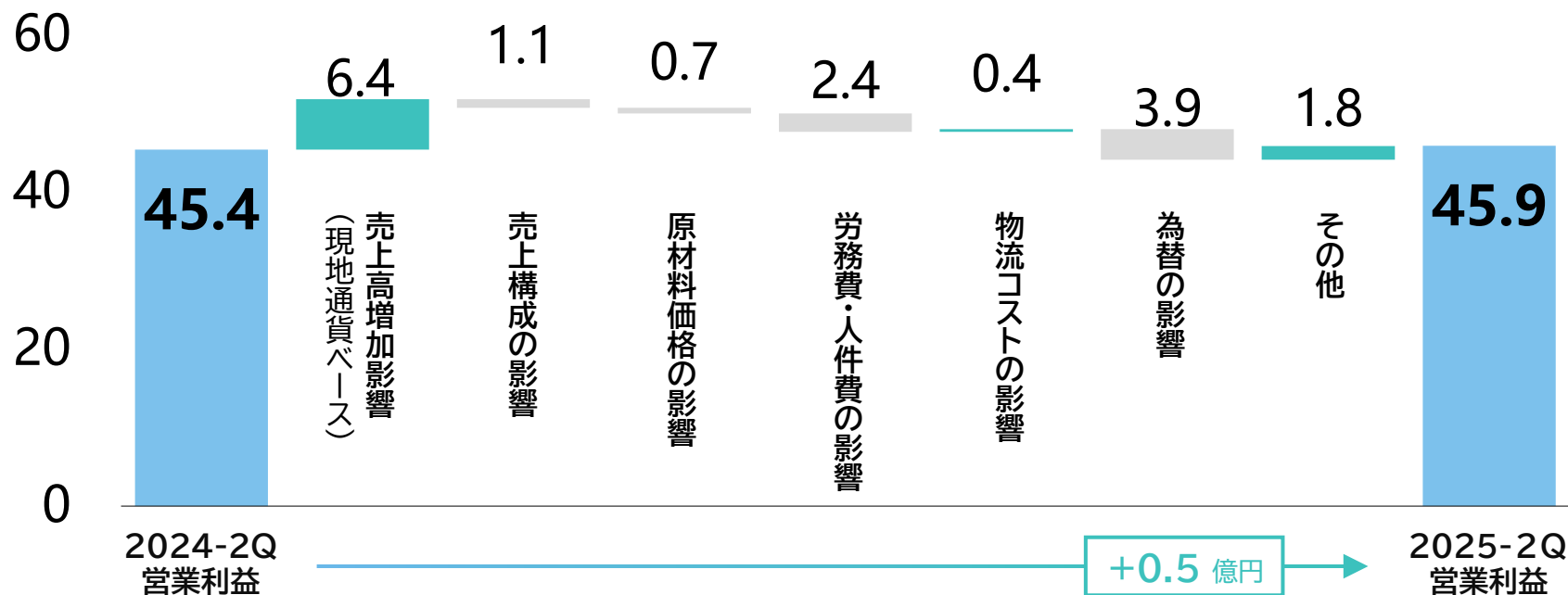
営業利益の変動要因

(単位: 億円)

- 売上高(現地通貨ベース)増加、物流コストの減少がプラス要因
- 売上構成の影響、労務費・人件費の増加、為替の影響がマイナス要因

	2024-2Q	2025-2Q	差異
売上高	454.5	458.6	+4.1
営業利益	45.4	45.9	+0.5
経常利益	42.8	50.7	+7.9

■ 営業利益 ■ プラス要因 ■ マイナス要因



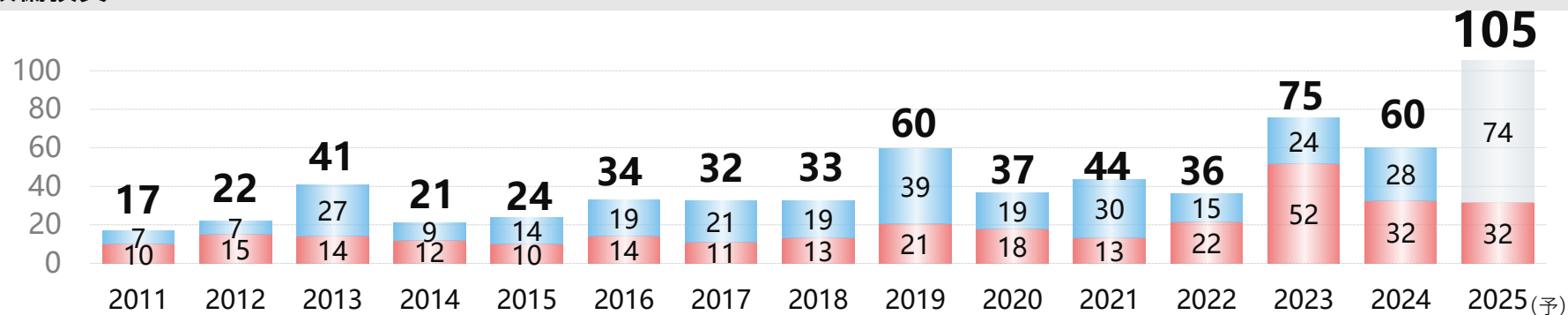
設備投資と減価償却費

国内外の製造設備の増設・移設、既存設備の更新

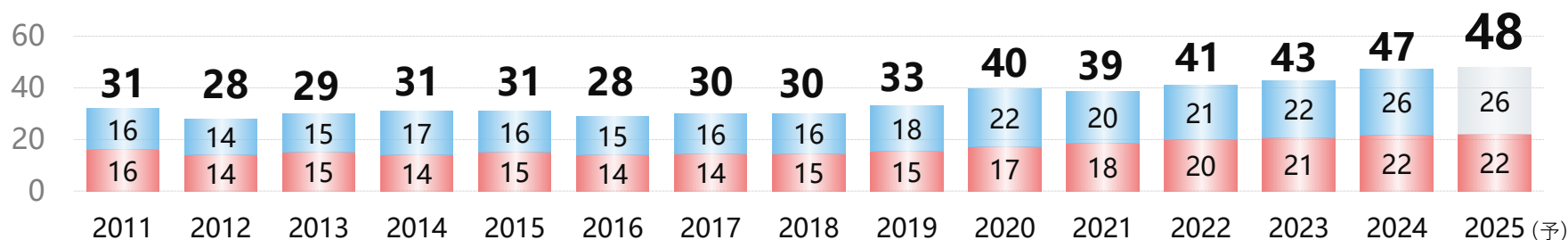
- ・ '24中期経営計画における3年間(2024年度~2026年度)の設備投資枠：200億円
- ・ 2025年度の計画承認額は、約52億円（2025年9月末時点）

■ 上期 ■ 下期 (金額は資産計上ベース／単位：億円)

設備投資



減価償却費



期初計画通り、堅調に推移

- 為替影響を除くと、実質的には増収・増益の計画（想定為替レート(USD):前期比 12.6円の円高で計画）。
- 2024年度は、政策保有株式売却による特別利益:約35億円を計上

（単位：百万円）

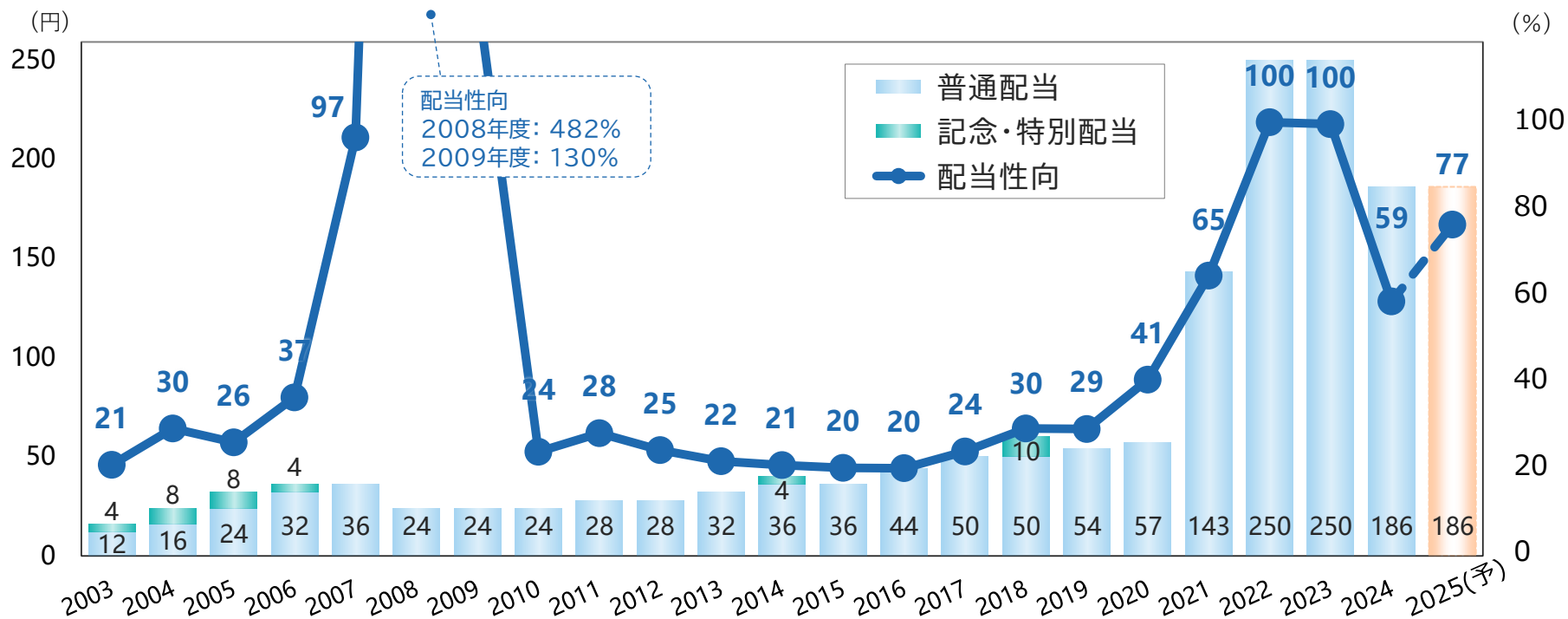
項目	2024 実績	2025開示 開示値		前期比	
		上期（実績）	通期	金額	%
売上高	90,510	45,868	89,000	△1,510	△1.7%
営業利益 率	8,928 9.9%	4,597 10.0%	8,600 9.7%	△328	△3.7%
経常利益 率	9,154 10.1%	5,075 11.1%	8,600 9.7%	△554	△6.1%
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益 率	9,060 10.0%	3,870 8.4%	6,800 7.6%	△2,260	△24.9%
為替レート:USD	152.6円	146円	140円	（期中平均レート）	

株主還元

2025年度 中間90円、期末96円(予想)

「'24中期経営計画」(2024年度～2026年度)において、
「持続的かつ安定的な配当」を目指し、DOE(純資産配当率)
の目安:5.4%程度(1株当たり配当金:180円/年 以上)

	中間	期末	合計
2024年度	90円	96円	186円
2025年度	90円		
2025年度 (予想)		96円	186円



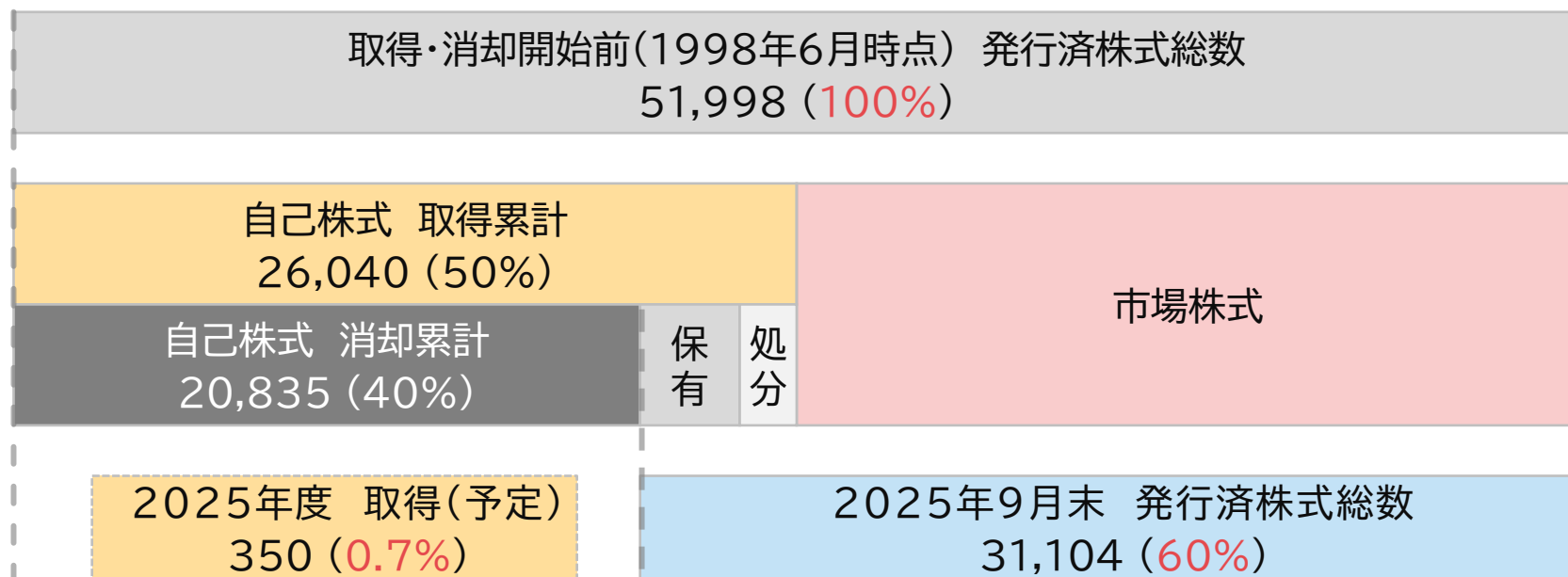
※ 2018年10月1日付の株式併合(2株→1株)に伴い、配当金は併合後の基準で換算しています。

自己株式の取得と消却

自己株式の取得を継続的に実施（取得累計:約50%、消却累計:約40%）

- ・「'24中期経営計画」の3年間で30億円の自己株式取得を目標とする
- ・2025年度の自己株式取得予定：上限 35万株、10億円(2025年11月11日～2026年1月30日)

(単位:千株)



(単元未満株式の取得・消却を除く)

(2018年10月1日付けで、普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っており、当該株式併合後の基準で換算した数値を記載)

A P P E N D I X

モビリティのEV化進展がもたらす 次の成長機会

三ツ星ベルトグループでは、自動車をはじめとするモビリティのEVシフトの潮流を“リスク”ではなく、大きな“機会”と捉え、車両の電動化進展に応じた新たな製品開発と拡販に取り組んでいます。



三ツ星ベルトの、EVシフト対応製品群



EPS駆動用タイミングベルト (四輪車向け)

ベルトドライブ方式のEPSは、ラック部に直接アシストパワーを加えることで操舵時の慣性や摩擦を抑制し、また、操舵力のサポートが必要なタイミングに限定してモーターを駆動することで、従来型のEPSに比べてエネルギー消費の最適化が図られています。さらに、よりダイレクトな操舵感と高いレスポンス性能を実現し、快適かつ効率的な操舵支援に貢献しています。



PSD駆動用タイミングベルト (四輪車向け)

タイミングベルト駆動によるステップ式のPSDは、シンプルな構造設計により高い耐久性を備えるとともに、ドア内部に余剰スペースを確保しやすく、車両設計の自由度向上にも寄与します。部品点数を抑えられることから、コスト面での優位性も高く、機能性と経済性を両立したシステムとして評価されています。



後輪駆動用タイミングベルト (電動二輪車向け)

タイミングベルトによる後輪駆動は、チェーンに比べて軽量かつ柔軟で、高精度な噛み合いにより駆動ロスを抑え、電力消費効率(電費)の向上に大きく寄与します。チェーン駆動では必要な注油や張力調整といった定期的なメンテナンスが不要で、走行時のノイズも大幅に低減できることから、電動二輪車の快適性と環境性能の向上に貢献しています。

ESGへの取り組み

三ツ星ベルトグループは、基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、2030年度の「ありたい姿」において、「持続可能な社会の実現への貢献(社会・環境・経済価値の向上)」を掲げ、特定したマテリアリティを主とする各ESG課題の解決に取り組んでいます。

(ESGへの取り組みの詳細につきましては、右のQRコードより統合報告書をご確認ください。)



E 環境

TCFD* 提言への賛同を表明するとともに、TCFDコンソーシアムに加盟し、同提言において開示が求められている4つの柱——ガバナンス、リスク管理、戦略、指標と目標——に沿って、当社グループの気候変動に関する取り組みを開示しています。

S 社会

2030年度の「ありたい姿」および'24中期経営計画において、「企業価値向上への取り組み」の最重要テーマとして「人財戦略の強化」を掲げ、その実現に向けた取り組みを進めています。

また、マテリアリティの1つに「人権と人格の尊重」を取り上げ、人権尊重の取り組みにも注力しています。

G ガバナンス

ESG経営を迅速かつ効果的に実行することを目的として、代表取締役社長が議長を務めるサステナビリティ会議を設置しております。同会議では、特定したマテリアリティに対する取り組みおよびKPI管理が行われています。



2024 Rank

気候変動、水セキュリティ : B (2021:C)
サプライヤーエンゲージメント : A-



2025 Score

ESG Score : 3.4
(2021年度 : 1.4)